

愛知県在宅医療連携拠点推進事業成果報告会
平成27年 3月12日ウイルあいち(愛知県女性総合センター)

走り出した名古屋市取り組み ・・・南区の場合・・・

名古屋市南区医師会
在宅医療連携拠点推進事業 事務局
医療法人笠寺病院 鈴木学、片桐健二
(名古屋市南区松池町3-19、TEL:052-811-1151)

1

事業計画時に考えたこと

目的:「南区の医療・介護のネットワーク構築」

サービス資源の量増加より、活用と連携

- 地域のサービス体制の現状把握の上に対策を
- 連携・ネットワーク拠点・司令塔“支援センター”
- 多職種連携のまえに、職種内連携を
- 連携のための情報共有方法の検討
- 次世代に継続する取り組み、人材育成
- 住民の理解のために広報
- 患者と家族の負担軽減も必要

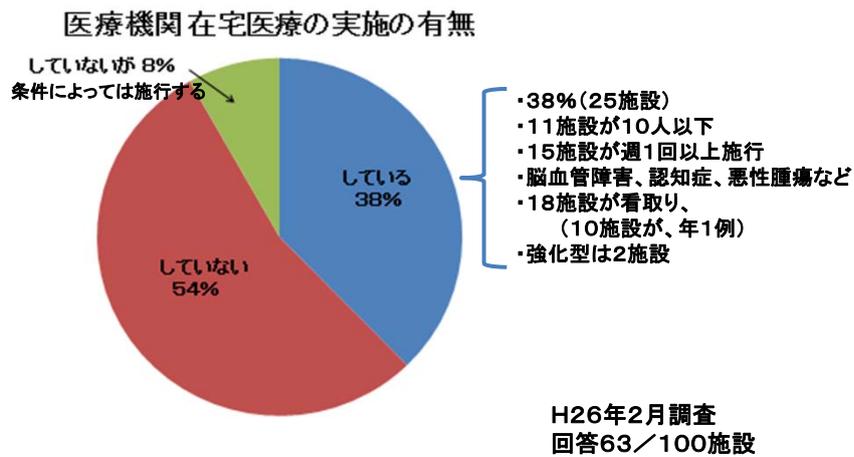
2

在宅医療実態調査 平成26年2月26日～3月末日

対象機関	発送数	回収数	回収率
医師会 ★	100	63	63%
歯科医師会	64	46	72%
薬剤師会	66	46	70%
ケアマネ ★	46	35	76%
訪問介護 ★	42	22	52%
デイサービス	41	22	54%
グループホーム	11	7	64%
訪問看護 ★	13	7	54%
デイケア	12	11	92%
老健	7	7	100%
住宅型有料	8	5	63%
介護付有料	5	4	80%
特養	6	5	83%
合計	421	280	67%

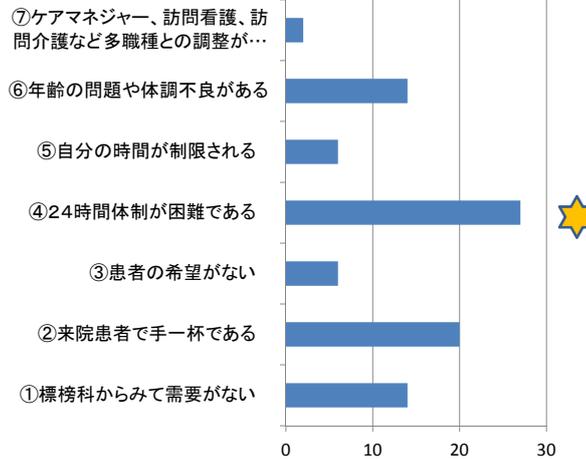
3

医師会員の在宅診療の実態



4

在宅医療を施行しない理由は・・・ 24時間対応が困難



5

ネットワークの準備から

在宅医療推進調整会議
区長、保健所長、社協会長、医師会長、
歯科医師会長、薬剤師会長、看護協会役員



合同会議も

在宅医療推進実務者会議
上記の組織から担当者を派遣、
いきいき支援センターなど、多職種で構成



**在宅医療支援センター構想は
名古屋市医師会在宅医療介護支援センター**

6

在宅医療を面として拡大するため、
多(他)職種連携・その前に職種内連携

- 医師間の連携のために
南区医師会在宅医療研究会
南区中小病院連絡会
南区病病連携情報交換会
- 訪問看護間の連携のために
南区訪問看護事業所連絡会
- 訪問介護事業者間の連携のために
南区訪問介護事業者連絡会

7

病診連携の良さを生かして取り組む
平成7年から組織された「南和会」



8

南区医師会在宅医療研究会

南区医師会館

第1回 平成26年8月23日(土) 参加者数 25名

- 1、在宅医療連携拠点推進事業の進捗状況の報告
- 2、南区医師会としての取組
- 3、ICT(KANAMIC のWebシステム)の試験運用報告

第2回 平成26年10月3日(金)参加者数 34名

講演: 名古屋市医師会 在宅医療モデル
・在宅医療支援システムの説明
名古屋市医師会理事 真野 寿雄 先生

9

南区医師会在宅医療研究会

第3回 平成26年11月11日(火) 参加者数 12名

南区医師会館

ICTを活用した情報共有ツールの概要説明

(株)カミックネットワーク 営業統括本部
名古屋営業所所長 菊池 滋 氏

第4回 平成27年2月12日(木)参加者数 90名

ガイシホール

講演: 柏市医師会の在宅医療への取り組みについて

医療法人社団清風会 理事長
平野医院 院長 平野 清 先生

10



11

在宅医療の課題 24時間体制の準備

- 医師が主体となる取り組みは
主治医、副主治医体制は名古屋市医師会の
方針に合わせて努力する。
南区の病院に支援体制を働きかける
- 訪問看護事業者の連携推進の働きかけ
→ 強化型、みなし強化型
- 訪問介護の体制強化の働きかけ

12

南区病・病連携情報交換会 中京病院大会議室

第1回 平成26年9月9日13施設:60名

1、基調講演:「見えてきた地域医療・地域包括ケアの将来像」
名古屋大学教授・総長補佐 水野正明

2、情報・意見交換
各病院の機能、運営方針の紹介
地域医療と在宅医療における今後の役割

第2回 平成27年2月13日

1、基調講演:「これからの日本の医療のあり方を考える」
独立行政法人地域医療機能推進機構本部理事
理事 藤木則夫

2、情報・意見交換

13

在宅医療連携拠点事業においては 中小病院の存在意義が問われる

- ・南区中小病院連絡会議
2000年から、年数回の情報交換会を施行
- ・在宅医療に関して中小病院の役割を検討
救急受け入れを当番制で
アセスメント入院、レスパイト入院
緊急時の代理往診の可否の検討
強化型への申請促進

14



南区訪問看護事業所連絡会議 笠寺病院会議室

第1回 平成26年7月15日 12事業所 19名

- 1、会の趣旨
- 2、**お互いの顔を知ろう!**
- 3、「在宅医療に関する調査」結果からみた課題
笠寺病院 鈴木 学
- 4、今後について

第2回 平成26年8月19日 14事業所 23名

- 1、現状報告: 笠寺病院 片桐健二
- 2、**南区における訪問看護の課題**
情報共有とICT、病院との連携、人員不足
強化型の問題点、事業所間連携
(懇親会)

第3回 平成26年9月17日 10事業所 18名

- 1、**ICT、カナミックネットワークの説明**
- 2、情報交換

第4回 平成26年10月24日 10事業所17名

- 1、**実地指導の内容について情報交換**

第5回 平成26年11月18日 8事業所14名

- 1、在宅医療推進事業・地域包括ケア
合同事業報告会の報告

第6回 平成26年12月16日 11事業所21名

- 1、**地域で助け合おう!! 連携の輪**
事業所の連携事例の紹介及び意見交換

第7回 平成27年1月20日 11事業所18名

- 1、**看取りについて** 施設での看取り事例の
紹介及び意見交換

第8回 平成27年2月17日

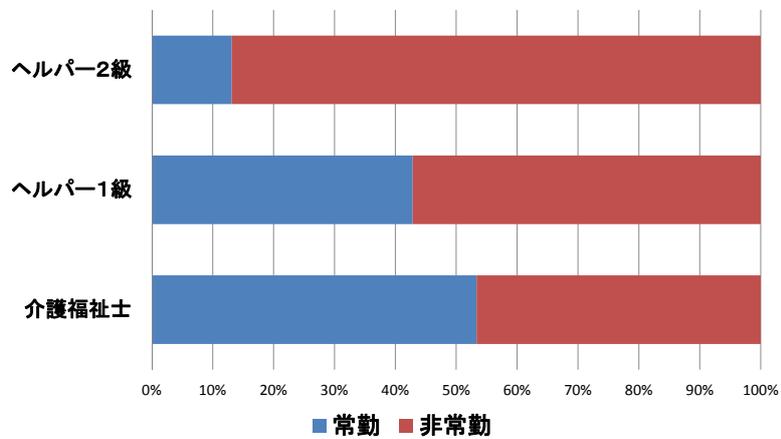
- 1、**看取りについて その2**
グループワーク



17

非常勤が多い介護職の連携をいかにするか

訪問介護事業所の常勤・非常勤 比率



18

南区訪問介護事業所代表者連絡会

笠寺病院会議室

第1回 平成27年2月17日

- 1、名古屋市医師会が取り組む、在宅医療介護支援体制の概略と協力要請 事務局
- 2、南区地域包括ケアにおける現状報告
- 3、今回の法改正について
- 4、訪問介護事業所連絡会の体制
- 5、医療に関する定期勉強会の決定

19



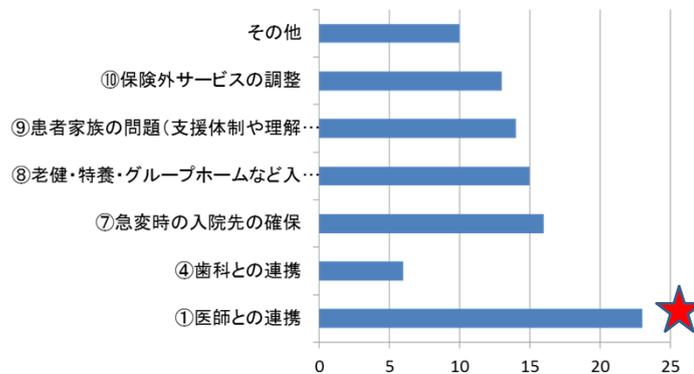
医療者は介護制度の理解を 介護者は医療の理解を

ケアマネージャー、いきいき支援センターと
の連携協力も重要

21

多職種連携・医師との情報交換が課題

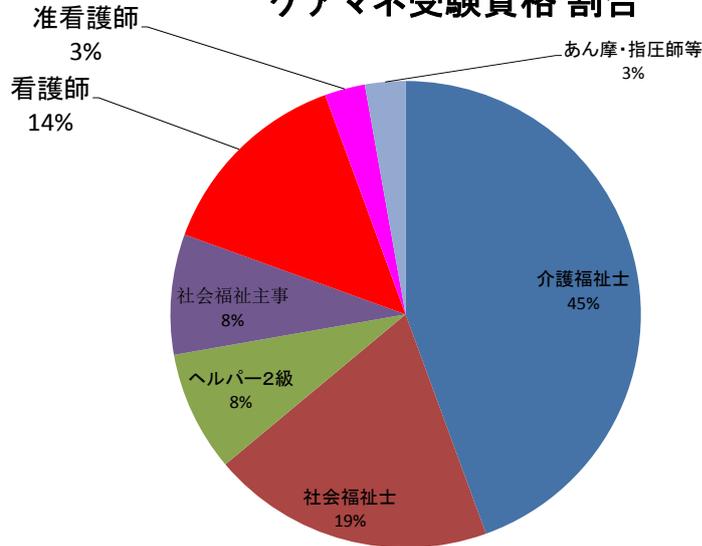
ケアマネからみて
改善が必要と思われる点



22

ケアマネに医療職が少ないと懸念するが...

ケアマネ受験資格 割合



23

互いに学べば問題ない

平成26年度 いきいき支援センター研修会
平成27年2月26日(木) 名古屋市医師会会館

「名古屋市医師会の在宅医療への取り組みと
今後の方向性を学ぶ」

第1部 基調説明

「名古屋市医師会の在宅医療・介護の取り組みについて」
名古屋市医師会 理事 真野寿雄

第2部 講演

「在宅医療の実際と今後の方向性について」
医療法人 笠寺病院 片桐健二

参加者56名 保健師7名、看護師12名、社会福祉士20名
主任介護支援専門員16名 介護支援専門員1名

24

情報共有の重要性と手法

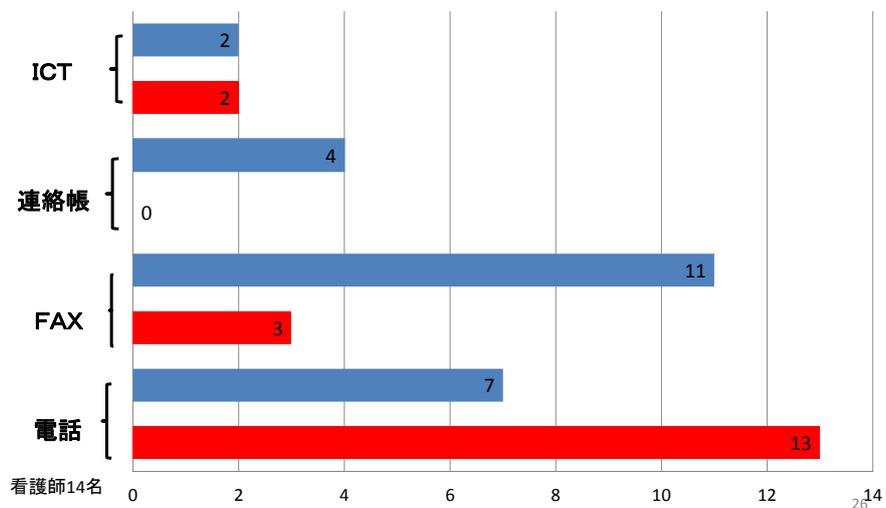
ICTに関する訪問看護師の現状と希望

25

情報伝達 \neq ICT

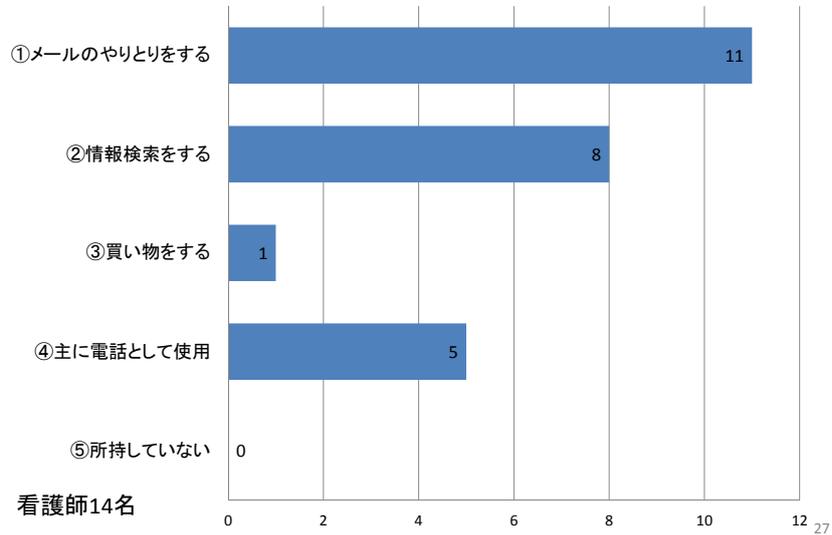
医師などへ連絡・報告手段

赤=緊急 青=通常



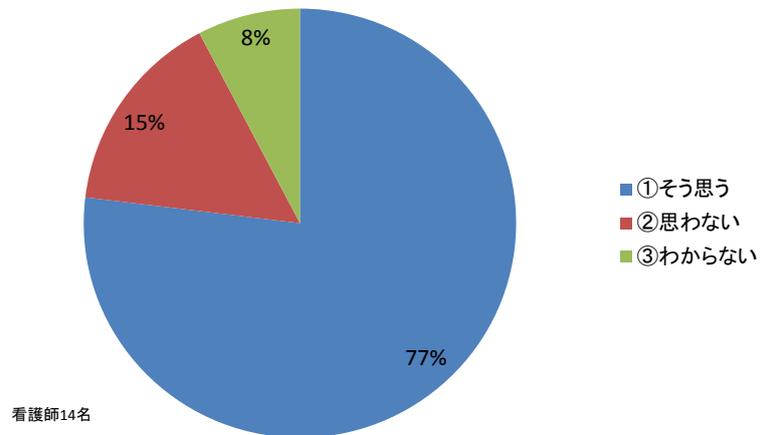
携帯端末は使用しているが……

日常生活でどの程度携帯端末の活用度



難点は……

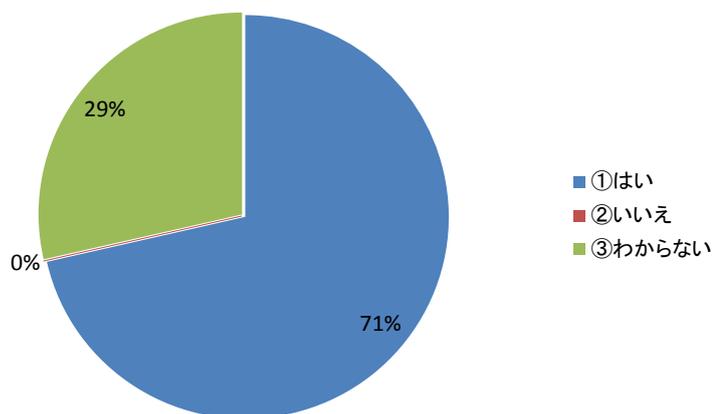
ICTを活用する場合の障害二重手間



28

待たれるマンマシンインターフェースの進歩

ICT活用のため手書き・音声入力や
スキャナー読み取りが有効と思うか



看護師14名

29

次世代の地域医療を担う人材養成

- 名市大の医学部、薬学部、看護学部の**早期体験学習**の受け入れ、在宅医療の体験により**多職種連携**の重要性を学ぶ
- 「なごやかモデル」(鳴子プロジェクト)で**地域枠の医学部生**の在宅医療実習受け入れ
- 中京病院臨床研修医「在宅訪問診療研修プログラム」、1月間、24時間体制で、計2名
- 次年度は中京病院と大同病院から実習計画

30

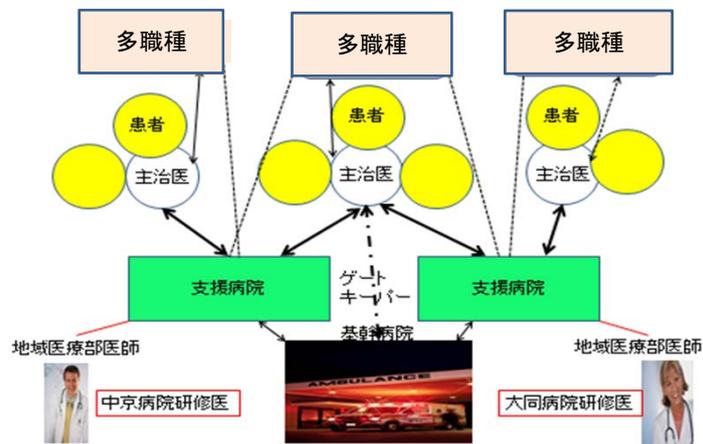


総合医(?)認定に関する病院勤務医 の在宅医療参加の提案

- 「総合医(仮称)に関する検討会」意見集約
多職種連携、在宅医療、日本医師会協力な
どの言葉がみられる。そこで...
- 臨床研修医が在宅に参加した場合
- 研修実績をポイント化して証明する。
例)待機1P、緊急往診5P、看取り10P
- 基幹病院の勤務医(専門医)も参加できる
- 医師会として認定医機構に働きかける
- 在宅24時間体制の後方支援が厚みを増す

32

在宅医療推進は病院機能の分化を促進し、次世代医師の育成に貢献する



33

地域住民への広報

地域包括ケアと在宅医療の理解のため

34

在宅医療連携推進拠点事業シンポジウム
平成26年4月12日 南区役所 講堂
“住み慣れた家庭や地域で安心して療養生活を送るため”

基調講演「地域包括ケアシステムと在宅医療」
大塚耕平 元厚生労働副大臣 参議院議員

パネルディスカッション

「名古屋南部の地域医療の現状と課題」

司会 伊藤 剛 名古屋市南区医師会長
パネリスト 横井利明 名古屋市議会議員
大原弘隆 名市大地域医療学講座教授
片桐健二 調整会議事務局(笠寺病院)
大塚耕平 参議院議員

35

第5回 JCHO中京病院 がん拠点病院 市民公開講座
H27年 2月21日 中京病院 講堂
「地域包括ケア時代のがん医療
がんになったらどう暮らす？」

開会の挨拶 長谷川泉 中京病院消化器内科部長/
がん診療センター長

①基調講演 「地域包括ケアの展望」

笠寺病院 片桐健二

②在宅医療担当医の立場から

名南診療所 大森久紀

③がん診療連携拠点病院の立場から

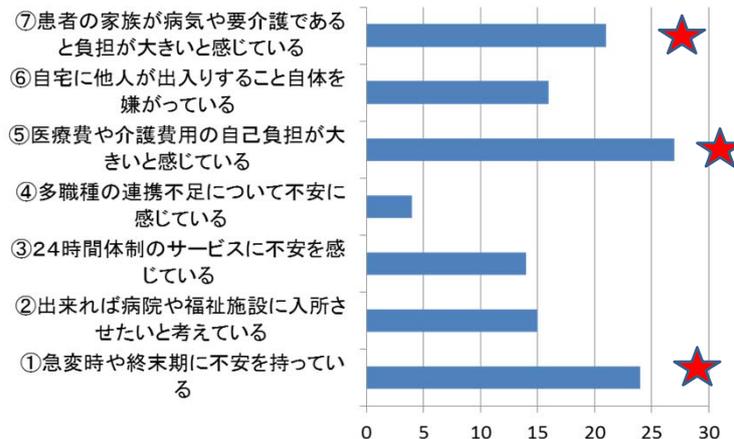
中京病院 吉本鉄介

閉会の挨拶 絹川常郎 中京病院 院長

36

在宅医療は患者・家族の視点で！ 不安と負担の軽減が必要

ケアマネからみて、
家族が心配している点



37

レスパイト入院・入所から一歩進んで・・・ 「家族負担の軽減とふるさと創生」

- 患者と家族に憩の時間を、健康寿命の延伸を！
県や市の憩の家、休暇村活用
遊休リゾート施設の活用
介護つきショート、ロングステイ、年金範囲で、



38

課題が浮き彫りにされ・・・

多職種連携の必要性が認識され・・・

市民も関心を寄せ・・・

行政と医師会が体制を整え・・・

取り組みは開始された・・・

しかし、端緒に過ぎない・・・

39



ご清聴ありがとうございました

名古屋市南区在宅医療推進事業調整会議

事務局 笠寺病院

鈴木 学、片桐健二

40